

ゴールデンサイズとは

5百羽以上の養鶏家が毎年増加し集団化してきた。この場合のコストダウンを考えてみると、養鶏における飼料費は西山氏の試算では60～61%といわれているが、実際は70%位ではないかと思われる。卵の生産費におよぼす各費目のなかで最高である。したがって、この面でのくふう改善いかんが、コストダウンにいちばん影響が多いわけである。

百羽や2百羽では、どんなに成績がよくともコブつき養鶏とみなされる。羽数をふやしてさえいけば、

必ずコストダウンが実現するかというと、これにも限度がある。

これ以上ふやすと手が回らなくなり、個々の鶏の観察も充分でなくなり成績が落ちて不利、さりとて、これ以下では手間損というのっぴきならぬ羽数、これがゴールデンサイズである。

この羽数をつかんで、一生懸命に飼うことがコストダウンの最後の切り札ではないかと思う。